

## 7. 指定地の整備状況

武蔵国分寺跡の整備は、昭和40年より史跡公園化を目的として、史跡指定地の公有化事業が開始されたことに始まる。翌年、市議会に「史跡公園促進特別委員会」が設置され、文化庁の指導のもと僧寺中枢部（金堂、講堂、鐘楼周辺）を対象に、昭和46・47・49年に環境整備第1期工事が行われた。しかし、市立第4中学校の建設問題（p.9参照）が起こったことにより、この工事は途中で頓挫することとなった。

当時の竣工図（第10図）から読み取ることのできる主な整備内容は、石材を用いた主要遺構の平面表示、および敷地造成、環境整備（植栽・電気設備等）であるが、講堂、鐘楼の平面表示の範囲には誤りがあり、また整備盛土に建設発生土が使用されるなど、遺跡の保存整備として必ずしも適切とは言い難いものになっている。

その後、昭和49年から昭和61年にかけて実施された寺跡範囲確認調査の成果をもとに、国分寺市史跡武蔵国分寺跡整備計画策定委員会での審議を経て、平成元年3月に「史跡武蔵国分寺跡保存管理計画」、続けて平成2年3月に「整備基本構想」、翌3年3月に「整備基本計画」がそれぞれ策定された。さらに、平成4年度からは尼寺地区の史跡公有地化事業がほぼ完了したことから、同地区の整備事業に着手し、平成15年4月に市立歴史公園武蔵国分尼寺跡として開園した。

一方、僧寺地区については、整備対象範囲の広さに加えて、「整備基本計画」策定後の史跡をとりまく社会情勢の変化が大きいことなどから、整備基本計画の見直しを行い、平成15年3月に「史跡武蔵国分寺跡〔僧寺地区〕新整備基本計画」（以下、「新整備基本計画」という）が策定され、翌15年度より事前遺構確認調査から整備事業に着手している。

「新整備基本計画」では、僧寺地区を「中枢地区」・「塔地区」・「南大門地区」・「北方地区」の4つに区分し、それぞれの地区ごとに事前遺構確認調査→測量・基本設計→実施設計→整備工事を実施する計画とした。

このうち、北方地区に含まれる、真姿の池の北側に広がる国分寺崖線上では、開発に先立つ発掘調査で伽藍地の北辺を区画する溝が発見され、平成18・19年度に緊急整備を実施し、平成20年4月に市立歴史公園史跡武蔵国分寺跡（僧寺北東地域）として開園した。

また、平成5年11月～平成8年3月には、泉町2丁目地区で西国分寺地区住宅市街地整備総合支援事業に伴う発掘調査が行われ、東山道武蔵路に比定される道路遺構が発見された。本道路遺構は、平成10年3月に策定した『東山道遺構の保存・活用整備計画策定調査報告書』に基づき、多喜窪通り北側からJR中央線南端までの幅15m、長さ約500m部分が保存・整備の対象となったが、このうち西国分寺住宅（現いずみプラザ）の東側では、10m幅の保存空地に加えて、東に隣接する12m幅の都市計画道路の西側5.0m部分が歩道となり、保存空地と歩道を合わせた15m幅の路面上に、東山道武蔵路の側溝を平面表示し、案内板が設置されている。さらに、保存対象地の北側で、JR中央線寄りの約998㎡部分については、屋外の遺構観察施設を設け、市立歴史公園として開園した。

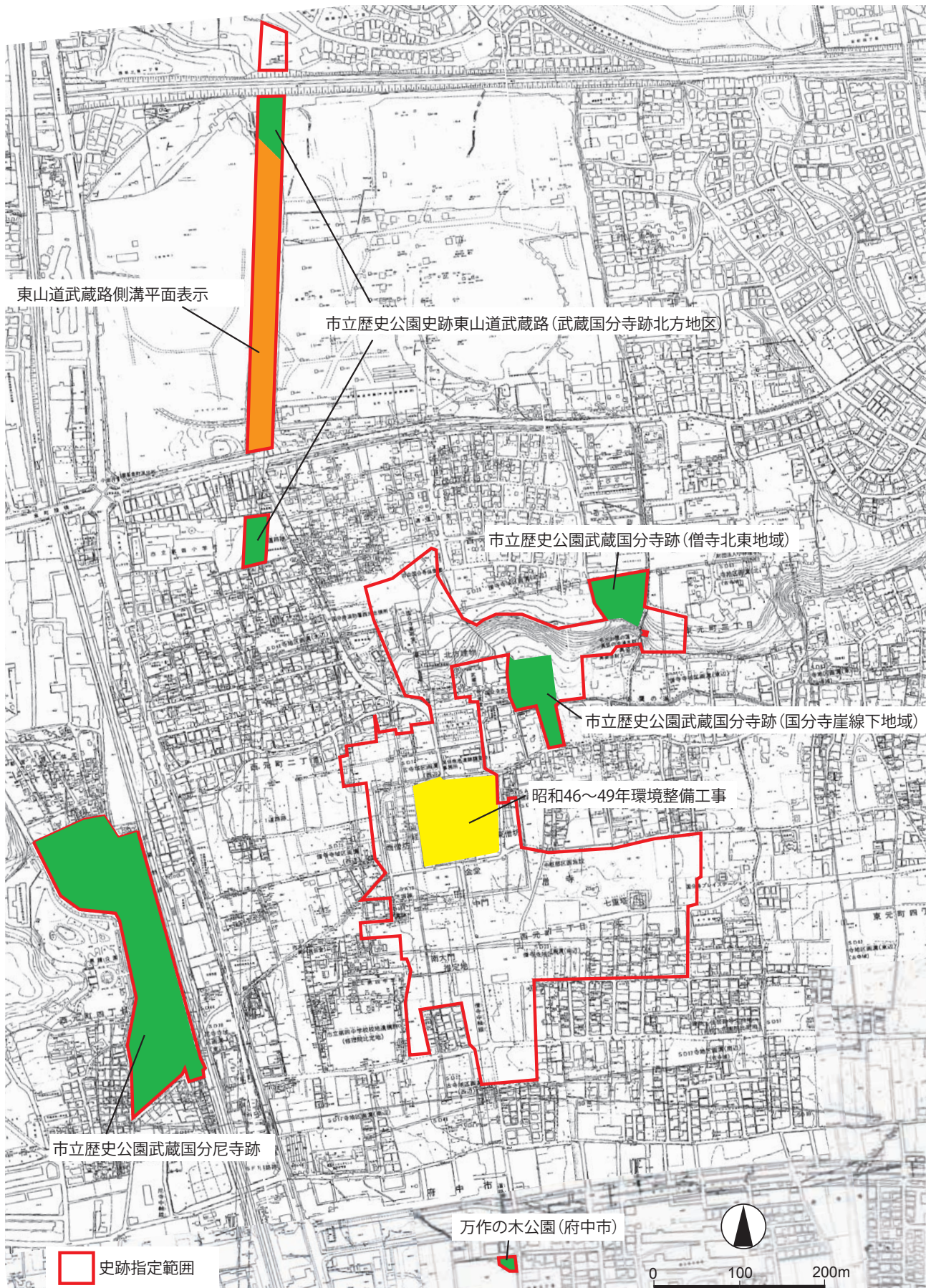
東山道武蔵路については、泉町地区よりも約100m南側にあたる旧第四小学校跡地（西元町二丁目）でも、平成18年10月20日～11月24日にかけて発掘調査（確認調査）が行われ、道路の延長部分が良好な状態で確認された。そのため、翌19年度には、「第4小学

校周辺地区地区計画」により、東山道武蔵路および隣接する史跡空地3箇所が地区施設として定められ、平成22年度に複数時期の側溝の平面表示を主とした整備工事を実施した。なお、本地区も歴史公園として平成23年4月1日に開園している。

府中市栄町に所在する参道口地区については、都営府中栄町三丁目第2団地建設事業の一環により、団地内に設置された都市公園「万作の木公園」の北側一角349.38㎡部分が史跡として指定されている。同地区で行われた事前の発掘調査では、僧寺南門・中門へと通じる南北の参道と、尼寺・東山道方面へ続く斜方向の参道とが二つに分岐し、その分岐点から僧寺方面へ延びる参道の際で、3時期に亘る冠木門跡が発見されている。公園内には、門柱の基部を復元し、参道は路面上に平面表示を施し、解説板を設けて歴史学習の場として活用されている。参道口の整備は東京都が実施し、現在府中市が史跡公園として管理を行っている。

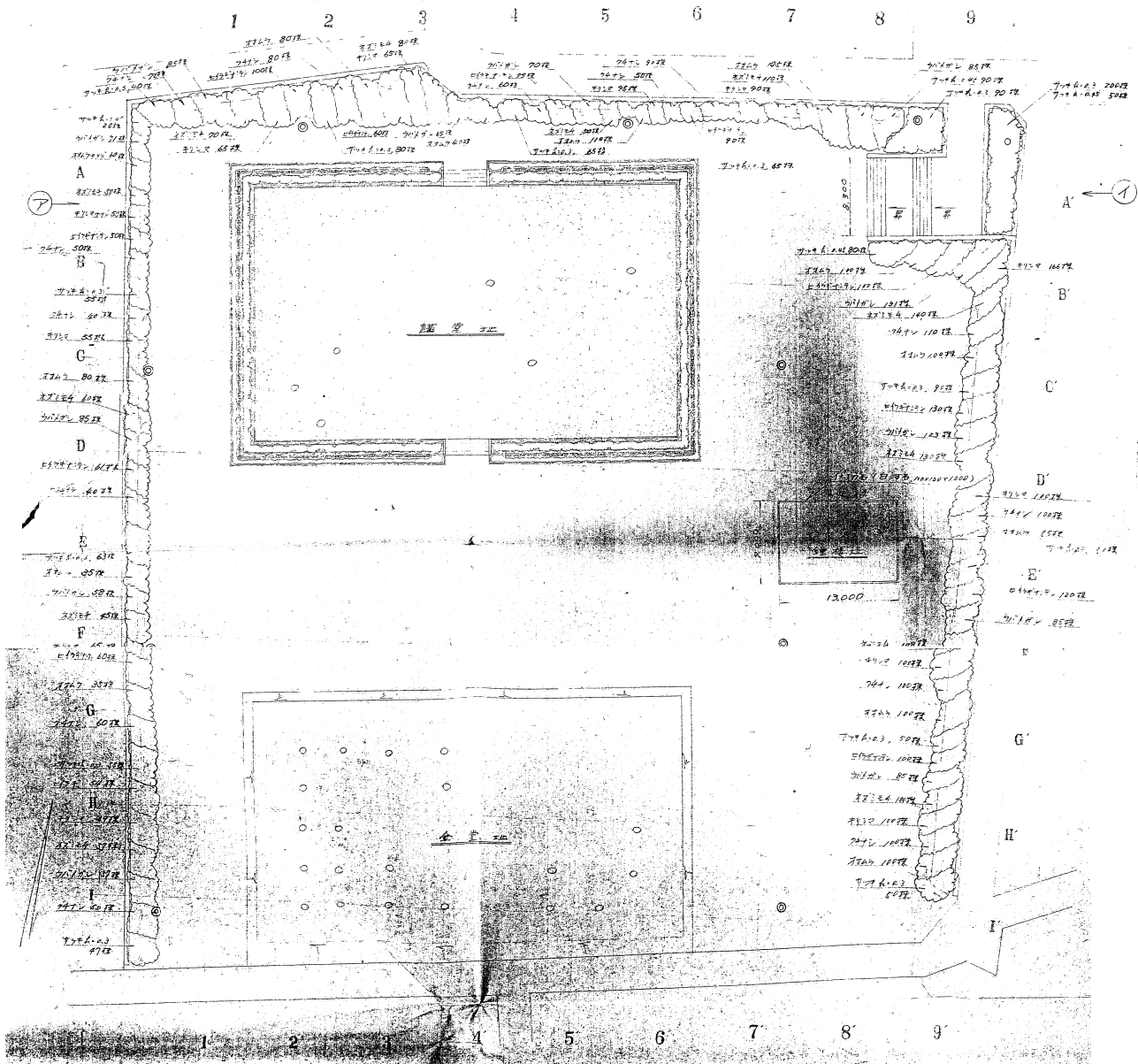
なお、平成23年度末現在で、国分寺市立歴史公園として整備している箇所は、次のとおりである。

市立歴史公園 武蔵国分尼寺跡	23,681.31㎡
市立歴史公園 史跡武蔵国分寺跡（僧寺北東地域）	3,216.94㎡
市立歴史公園 史跡武蔵国分寺跡（国分寺崖線下地域）	4,571.84㎡
市立歴史公園 史跡東山道武蔵路（武蔵国分寺跡北方地区）	2,491.04㎡
※うち泉町地区 998.70㎡，旧四小跡地地区 1,492.34㎡	

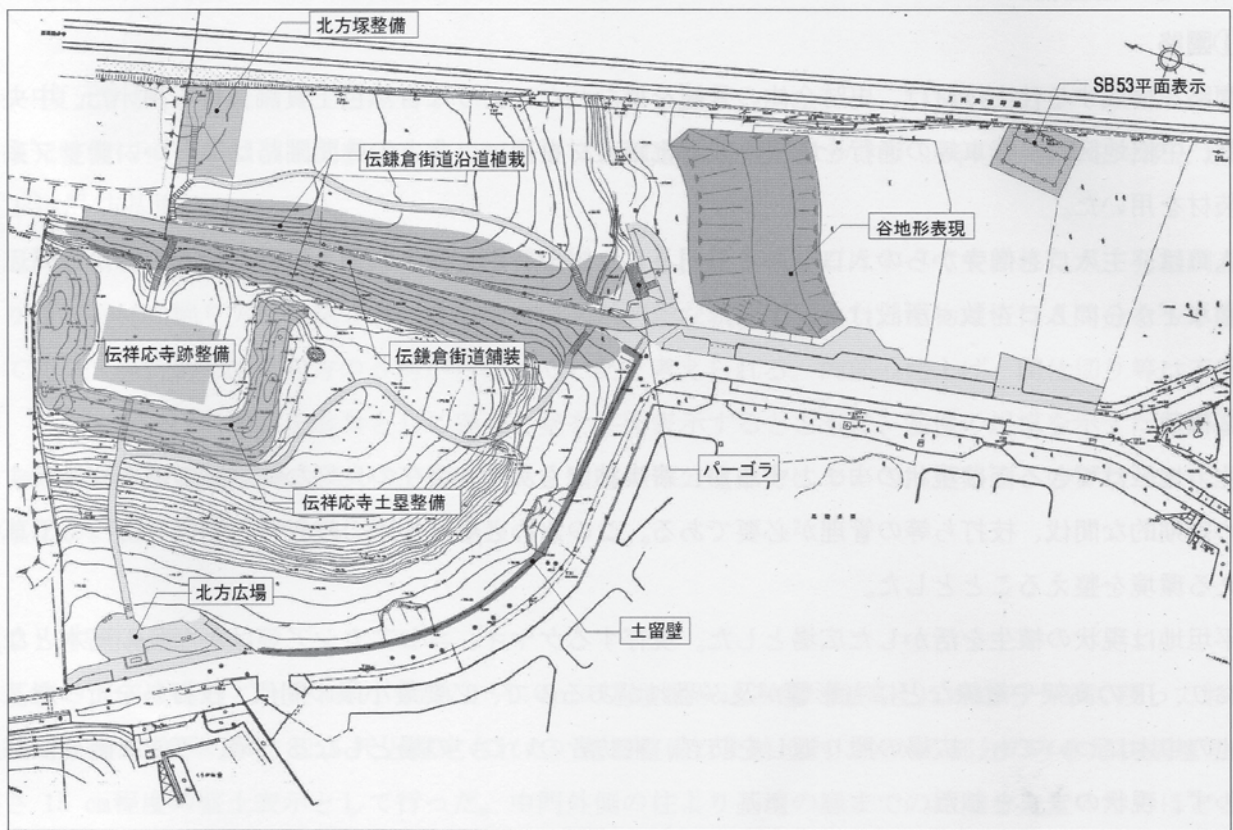


第9図 整備状況図(平成24年4月現在)

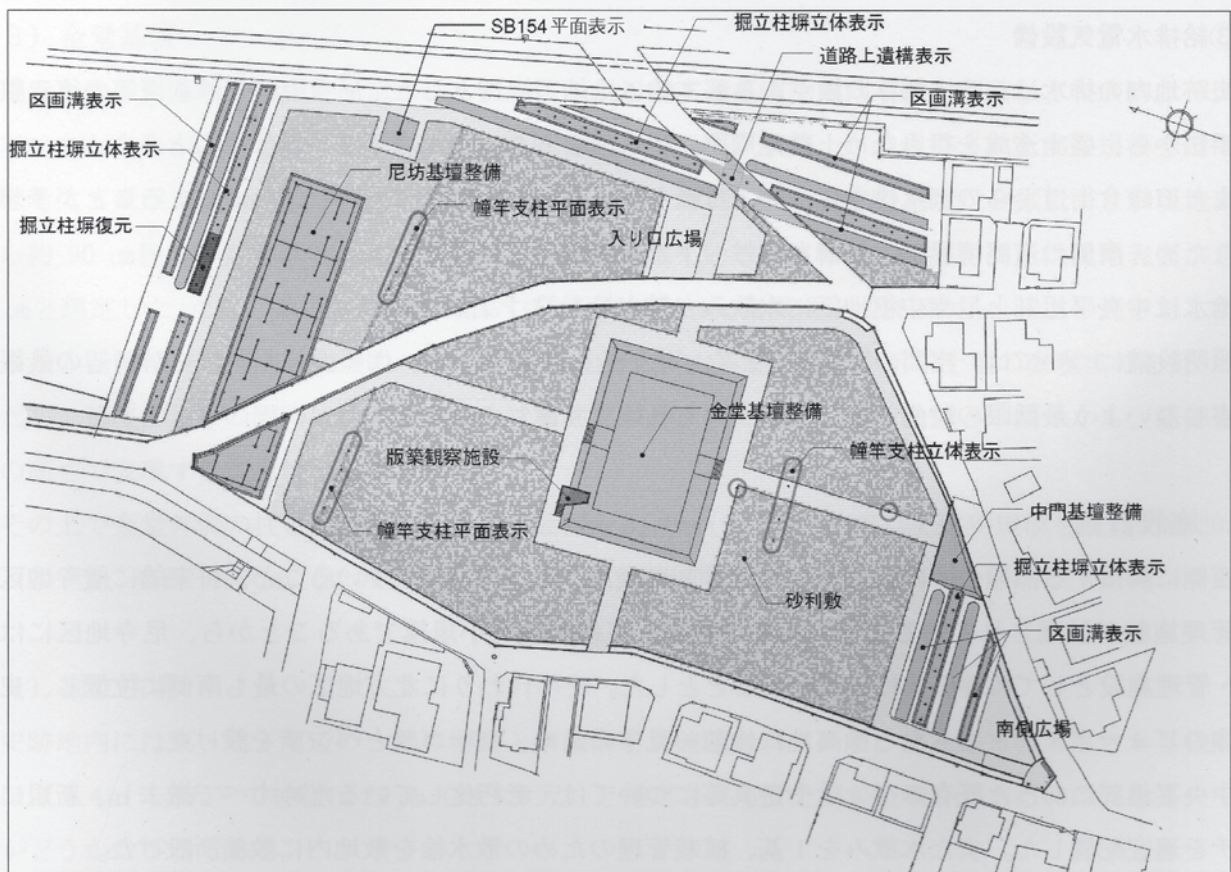
平面図 1/500  
(不詳図)



第 10 図 武蔵国分寺跡史跡公園築造工事竣工図 (昭和 47 年度)

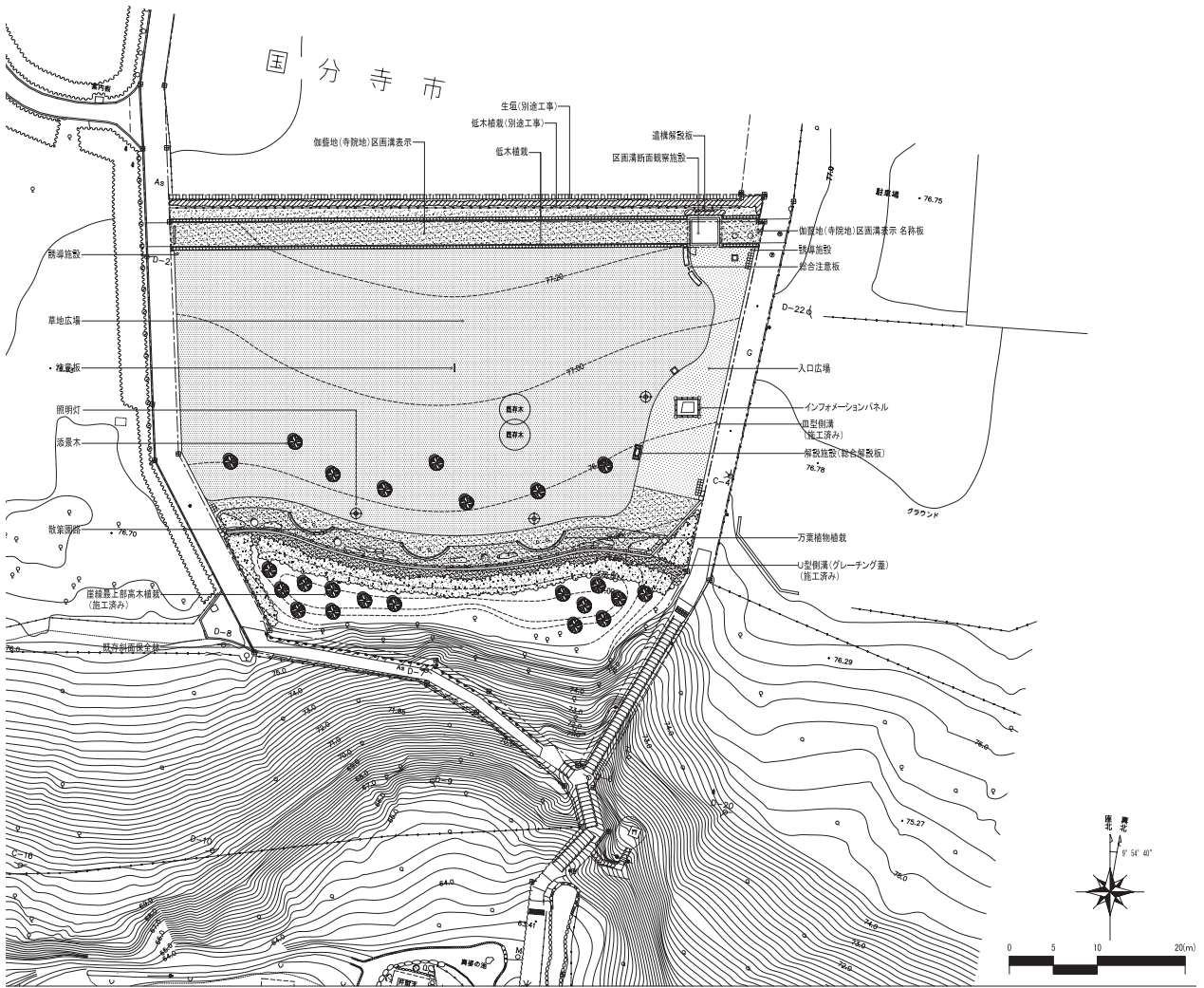


北方地区遺構整備計画



中枢地区遺構整備計画

第11図 市立歴史公園 武蔵国分尼寺跡整備計画図



第 12 図 市立歴史公園 史跡武蔵国分寺跡（僧寺北東地域）整備平面図